

Message from OB

INTERVIEW

香大祭や新歓祭を運営している「サークル連合H.O.P.」。13年前にH.O.P.を立ち上げ、現在中学校の英語教員をされている久保さんにお話を伺いました。



高松市立龍雲中学校教諭

久保 孝彰

2011年 香川大学教育学部卒業

2019年 香川大学大学院教育学研究科修了

大学院の学び直しで 授業に変化

私は現在、中学校で英語を教えています。小学生の時に父の仕事の都合で1年ほどアメリカに住んでいたこともあり、幼少期から英語で話すことができるようになりました。ところが、帰国し中学生になり英語のテストを受けたところ、思うような点数を取ることができませんでした。英語の授業で教わる「書く英語」と私が話す「しゃべる英語」が違っていたことが原因で、もどかしく、何かおかしいとずっと思っていました。そこで、将来は英語の教員になって、話せる英語を生徒に身に着けさせる授業をしたいと思い、香川大に入学し教育学部で勉強に打ち込みました。大学卒業後は念願だった中学校の英語教員として教鞭をとることになりましたが、当時はどのように生徒に伝えればよいかかわからず、がむしゃらに指導しており、何が良かったのか、何が悪かったのか、理論的に分からず悩んでいました。そんな時、母校である香川大で大学院生として再び学ぶチャンスを得たとき、当時香川大におられた齋藤先生と出会いました。

大学院で学び直して良かったと思うことは、教育理論を学び直せること、教育理論を学び直せること、大学生の時に「通り学んでいました」が、学ぶことと実践することとはやはり違っており、現場での実践を経験したうえでもう一度学ぶことによって、より理解でき、しっかりと身に付けることができました。大学院で学び直した教育理論をアレンジし、フィードバックを行うことで、私が受けてきた授業とは違う授業ができていっていると思います。今は本当に授業することが楽しいです。また、ここでの試みを「研究者として論文にするなど、大学院を修了した後でも研究活動を続けています。大学の先生とも連携しており、本を共著で出版することもできました。

子供たちに「ここが大事」と気づかせ、それが「使える」と理解させる事が重要だと思えます。「使える」と分かれば、より多くのことができるようになり、後は自ずと勉強が楽しくなっていくようです。英語の授業が2時間続いたら「やったー」となるくらい英語が好きになるぞと年度の初めに話しています。生徒たちは最初疑いますが、1学期が終わるころには「先生の言っていたことは本当でした」と、(大学院の学び直しから授業のやり方が変わったことで)、英語の授業が好きになる生徒が多くなりました。

History Of Party ホップ・ステップ・ジャンプ!で 歴史を作る団体に

今の教師生活の土台は香川大にあります。大学時代、私はサークル連合H.O.P.を立ち上げました。当時、新入生に対してのサークル勧誘は各サークルが独自に行っていたこともあり、効果的なアピールができていないことが学生の悩みでした。また、大学職員と連携が十分ではなく、学内での飲酒禁止やピラ配りの方法などのルールが徹底されていなかったこともあり、大学側から学生への信頼が失われているように思いました。新入生へのアピールはもちろん、学生の信頼を取り戻したいと考えた私は各サークルから代表者を募り、新歓祭を盛り上げるべくH.O.P.を立ち上げました。各サークルによるイベントをたくさん盛り込んだ新歓祭は、大いに盛り上がり、サークルの活動をしかりアピールできたことでサークルの加入率も上がったようです。サークルの力を集めたときの「ささや目の当たりにした瞬間でした。

実行委員が減り、開催が危ぶまれていた大学祭についても、新歓祭よりもさらに大きな成果を上げたと思います。学生間の連携のみではなく、教職協働でH.O.P.を中心に開催しました。私自身、教育実習に注力していた時期に大学祭の準備期間が重なったこともあり本当に大変でしたが、多くの方々に支えていただき、みんなで作り上げることができました。

実のところH.O.P.は5年ぐらいい続けたいと思いましたが、今なお、多くの後輩たちが集い、新歓祭や大学祭を盛り上げてくれていることに本当に感謝しています。H.O.P.の知名度も上がっており、その存在が広く知られていることは初代代表として、とてもうれしく思います。実は今年度の大学祭に足を運んでいました。楽しそうに生き生きと活動している後輩を見て、H.O.P.を立ち上げて良かったと思っています。

生徒とともに 「究極の授業」を

学生時代の経験で、行動力だけでなく、限られた時間でどれだけ楽しませ、集客し、充実させるかという計画力も大切であることを学ぶことができました。この経験は今の仕事でも活かしています。50分の授業の中で、何を教え、練習させて、何をできるようにさせるか、visionを持たせて充実させていくことをいつも大事にしています。また、中学生たちが主役になれるよう支える側になりたいと思っています。

今やりたいことは「究極の授業」です。自分がこれだと思える授業にさらに磨きをかけていきたいと思っています。



H.O.P.代表を務めていた頃の在学中の久保さん。この写真がかがアド10号に掲載されたものです。今回も同じ場所で撮影しました。